

おおだて 

令和4年11月1日 146号

市議会だより



令和4年9月定例会 議案等の審議結果……▶	2
一般質問……▶	4
常任委員会から……▶	9
令和3年度決算特別委員会……▶	13
私もひ・と・こ・と……▶	14

第7回肉×博 肉の博覧会の様子
(令和4年9月25日撮影)

9月定例会の主な議案等の審議結果



令和4年9月定例会は、8月29日から9月29日までの32日間の会期で開催されました。市長提出議案は、報告1件、専決処分の承認3件、条例案7件、単行案5件、予算案8件、決算の認定19件など、合計45件でした。

ここでは、審議の結果の主なものをお知らせします。決算については13ページをご覧ください。

専決処分の承認

- | | |
|---------|------------------------|
| 認 第 6 号 | 令和4年度大館市一般会計補正予算（第4号） |
| 認 第 7 号 | 令和4年度大館市一般会計補正予算（第5号） |
| 認 第 8 号 | 大館市災害見舞金支給条例の一部を改正する条例 |

承認

条 例 案

- | | |
|--------|------------------------------|
| 議案第84号 | 地方公務員法の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例案 |
| 議案第85号 | 大館市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例案 |
| 議案第88号 | 大館市建築関係手数料条例の一部を改正する条例案 |

原案
可決

など

単 行 案

- | | |
|----------|----------------------------|
| 議案第 92 号 | 市道路線の認定について（清水16号線外2路線） |
| 議案第100号 | 財産の取得について（除雪グレーダ（3.1m級）1台） |

原案
可決

など

補正予算案

議案第93号	令和4年度大館市一般会計補正予算（第6号）案
議案第94号	令和4年度大館市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）案
議案第95号	令和4年度大館市介護保険特別会計補正予算（第1号）案
議案第96号	令和4年度大館市戸別浄化槽整備事業特別会計補正予算（第1号）案
議案第97号	令和4年度大館市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）案
議案第98号	令和4年度大館市工業用水道事業特別会計補正予算（第1号）案
議案第99号	令和4年度大館市病院事業会計補正予算（第2号）案

原案
可決

など

継続審査となっていた請願・陳情

請願第8号	扇田病院の無床診療所化に反対する請願書
-------	---------------------

不採択

請願第4号	地域医療を守り、公立病院等の維持・存続を求める意見書の提出要請について
請願第9号	東台地区コミュニティセンター（仮称）の建設について
陳情第6号	辺野古新基地建設の中止と、普天間基地の沖縄県外、国外への移転を民主主義及び日本国憲法に基づき公正に解決させるよう求める意見書の提出要請について
陳情第8号	「沖縄県民は先住民族」との国連の勧告を撤回させることを求める意見書の提出要請について
陳情第9号	米軍普天間飛行場の辺野古移設を促進するよう求める意見書の提出要請について
陳情第10号	臓器移植の環境整備を求める意見書の提出要請について
陳情第30号	日米地位協定の抜本的な見直しを求める意見書の提出要請について
陳情第40号	日米地位協定の抜本的な見直しを求める意見書の提出要請について
陳情第41号	辺野古新基地建設の中止と、普天間基地の沖縄県外・国外移転について国民的議論を行い、憲法に基づき公正かつ民主的に解決するべきとする意見書の提出要請について
陳情第43号	沖縄防衛局による沖縄本島南部の沖縄戦戦没者の遺骨が混じった土砂の採取計画を止めることを国に要請して求める意見書の提出要請に関する陳情書
陳情第47号	人工透析を要する要介護者における介護保険制度の改正について
陳情第49号	沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を埋立てに使用しないよう国に要請する意見書の提出要請に関する陳情書
陳情第50号	ウイグルの人権問題に対し国に調査を求める意見書採択のお願い
陳情第56号	沖縄を「捨て石」にしない安全保障政策を求める意見書の提出を求める陳情
陳情第58号	中国共産党による臓器収奪の即時停止ならびに人権状況の改善を求める意見書の提出に関する陳情

継続
審査

一 般 質 問

一般質問とは、市政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する考え方などの報告や説明を市に求め、適切な市政運営を進めているかチェックするものです。

ここでは、議員本人が要約したものを掲載しております。

大館市議会

検索

クリック

一 般 質 問

幻で終わった長木ダム建設を強く願う

田中 耕太郎 議員（令和会）
たなか こうたろう



〈問〉 大雨災害を教訓に、治水・利水・エネルギー政策について長期展望の視野で推し進めるべき。

〔市長〕 各種インフラ整備は国や県の協力が不可欠であり、市民や事業者と意見を共有し、整備の効果を感じていただくことが何よりも大事である。治水対策だけでなく、米代川水系に水源の8割を依存している水道事業の脆弱性を痛感し、改めて整備の重要性を確認した。

気候変動の影響による水害の激甚化、頻発化を踏まえ、河川法に基づく河川整備基本方針の見直しが必要である。米代川水系河川整備計画の見直しを関係機関に検討していただいている。単体の河川で事業計画を論ずるのではなく、米代川水系の中で、どの水系にどのような対策を施

すのか、いわゆる流域治水が重要。さらに干ばつへの備えとして、貯水による利水の視点も欠かせない。今後は、ダム建設はじめ貯水機能として遊水地や田んぼダムの検討、発電設備につながる投資の可能性を、専門家や産業振興への連動など幅広い視野で検証するとともに、議論を深めて事業化へ導きたい。



※新型コロナウイルス飛沫感染対策として、演壇に透明アクリル板を設置しました。

国の水田利活用交付金廃止で 農家離れが進む

田村 秀雄 議員（市民の風）
たむら ひでお



〔問〕 国は、5年間に一度も水稻を作付けされない水田には交付金が支払われないとしており、米価下落や資材の高騰の中で、ますます農家離れが進む問題に市の対応は。

〔市長〕 交付金廃止は、水田の転作として畑作物を作付けしている農業者にとっては、直接的な農業収入減少につながり、離農や耕作放棄地の増加など、地域農業に大きな影響を与えるものだ。転作を奨励してきた国の方針転換に対し、県選出国会議員を通じて、国に柔軟な制度の運用を求める要望書を提出したところだ。

〔問〕 五色湖キャンプ場でのSDGs整備事業について、市内外の集客周知やインフラ整備は。

〔市長〕 アウトドアの拠点として新たな脚光を浴びる本市の観光施策

の重要な事業である。設計、運営を行う事業者をプロポーザル方式により決定し、6年度内の完成を目指し、来年度から本格的なハード整備を進める。携帯の通話整備については、周辺のWi-Fi環境を整備する予定であり、スピード感を持って進める。

〔問〕 ロケット燃焼試験場までの道路整備状況と今後の予定、試験場の土地貸付料の使い道はどうか。

〔市長〕 市道岩瀬線は、五色湖や田代岳県立自然公園に通じる重要な道路。国の事業を活用しながら、安全対策や道路整備を進める。



一般質問の全文は、12月中に市のホームページへ掲載する会議録でご覧いただけます。

一般質問

市民の声を大切に 持続可能な大館のまちづくりを！

田村 儀光 議員（活性大館）
たむら のりみつ



〔問〕 去る7月、3年ぶりの行政視察で北海道土幌町（かみしほろちょう）を訪問し、持続可能なまちづくりの取組と、そのすばらしい成果に感心してきた。大館との違いはと振り返ると、事業・政策に差異はなく、むしろ本市の計画のほうがすばらしく、結果が伴わないのはなぜかと考えると、自分なりに一つにはふるさと納税（寄附金）への取組の甘さ、日景議員に言わせれば、大館は50億円いけるとのこと。もう一つは、市民への情報伝達の弱さ、マスコミや広報、市民と語る会など、何度もお願しているが、市民と語る会の取組を増やしてほしいと思うが、市長の考えは。

〔市長〕 北海道土幌町は、ふるさと納税を重点的に活用し、地域課

題の解決に取り組んでいると伺っている。ふるさと納税の本市が持つポテンシャル（潜在能力）は70億円と知っている。ふるさと納税の仕組みの本質を捉え、取り組みたい。本市は、「ひとづくり」「暮らしづくり」「ものづくり」「物語づくり」「まちづくり」「まちそだて」の6つを基本目標に掲げて、持続可能なまちづくりを進めている。「ひとづくり」においては、市民から要望の多かった全天候型の「子どもの遊び場」の整備に取り組み、今年度、ニプロハチ公ドームパークセンターにオープンする。「ものづくり」においては、さらなる企業誘致に取り組んだ結果、大手化学繊維メーカーの東洋紡株式会社が大館市への進出を表明するなど、新たな雇用を創出し続けている。「まちづくり」においては、「大館版mobiプロジェクト」の実証運行を開始する。大館駅周辺整備事業においては、インランドデポの整備を図るなど、次世代のための投資を行っている。また、様々な会合やイベントを通じて、市民の皆様への周知に努めていく。

※新型コロナウイルス飛沫感染対策として、演壇に透明アクリル板を設置しました。

大雨被災者の相談窓口と下内川の早期改修 コロナ禍で医療が逼迫 扇田病院無床化撤回を

相馬 恵子 議員（市民の風）
そうま えみこ



業着手していたが、このたびの大雨で3か所決壊し、早期改修のため佐竹知事に要望。「予算前倒しする予定」との返答と、国の担当大臣の厚い財政支援もお願いしたので御理解をいただきたい。

〔問〕 このたびの記録的な大雨によって土砂崩れや浸水被害が相次ぎ、各地で甚大な被害をもたらした。特に十二所、比内地区では、土砂崩れや床上、床下浸水など、また、独鈷炭谷で9人が孤立、大葛地区では土砂崩れが発生し、全面通行止めに、また、県道に架かる橋が崩落したほか、比内地鶏が水没するなど被害額21億4000万円にも上り被害の大きさを物語っている。被災された人たちは精神的にも肉体的にも疲れ果てていることを受けて比内総合支所の中に専用の「相談窓口」を設置し、少しでも被災者の負担軽減を図ること、また、下内川の早期改修についての市長の考えを伺う。

〔市長〕 復旧支援事業については比内総合支所に9月1日から職員5人配置し臨時の相談窓口を開設した。また、下内川の改修は27年度から事

〔問〕 コロナ禍で医療が逼迫、国の方針どおり扇田病院無床化を撤回すべき。新規感染者が過去最多、感染症の猛威は一向に衰えない。市民生活を支える病院、消防、高齢者施設等でも職員が感染する等、当病院でも看護師や職員が感染し、人繰りがつかず、診療や入院を制限し医療が逼迫したことで市民は不安に陥った。発熱外来で扇田病院は302人もの人が受診しており病々連携によって重要な役割を果たしているのになぜ無床化させるのか、改めて考えを聞かせてほしい。

〔市長〕 8月6日から、総合病院敷地内に「臨時発熱外来」を開設し、医療職や事務職が総出で対応した。延べ23日間で639人の診察を行った。診療所化案は、将来の人口減少と医療の担い手不足が懸念されることから、介護サービスも含めた包括的な議論を進めていきたいと考えている。

大館市議会

検索

クリック

一般質問

記録的大雨による災害調査の徹底と 被害復旧支援に最大限の対応を求める

吉原 正 議員（市民の風）
よしわら ただし



に協調して助成を行いたい。

扇田病院は病床を持ちながら市民の安心できる医療の一翼を担うべきである

〔問〕 安全・安心を掲げる市政のトップとして、市民の求める医療体制をつくるべきである。

〔市長〕 市民の意見や要望は比内地域に医療を提供する場を残してほしいとの願いであると受け止める。

〔問〕 扇田病院に赤字のない経営を求めるのは、公的病院の現状から無理難題というものだ。

〔病院管理者〕 資金不足が病院の収益や市の財政規模に対して増加していく場合は、当該病院は存続が成り立たないということ。

〔問〕 国の「持続可能な地域医療体制、新ガイドライン」は、病院を統廃合するのではなく、連携体制の強化を求めている。総合と扇田は機能分担、連携を続けるべきだ。

〔病院管理者〕 2つの市立病院間での連携強化と集約化を行う中で、入院機能を総合病院にまとめた方が医療現場の労働生産性を上げ、効率的医療が行われることになると考えている。

〔問〕 被災調査は原則自己申告とされるが、調査漏れのないよう万全に対処すべきである。

〔市長〕 被害箇所の把握は地域と連携が不可欠で、町内会長や行政協力員の協力を得ながら取り組む。

〔問〕 災害で離農者が出ないよう復旧支援補助率を上げる検討を。

〔市長〕 国の災害復旧事業の要件に満たない箇所について、市の小災害復旧支援事業を活用してもらうが県の嵩上げを適用して農地は3分の2、農業用施設は6分の5の補助率で負担の軽減を図る。

〔問〕 特産の比内地鶏も大きな被害を受けた。コロナ禍と飼料高騰で厳しい経営下での被災で最大産地としての特段の支援策を。

〔市長〕 被災した生産者が早期に営農を再開できるよう県の支援事業

大規模災害時の避難所の整備について 扇田病院と総合病院の連携について 他

おばた しんいち
小畑 新一 議員（公明党）



〔問〕 一般会計の安定した財源確保のために企業版ふるさと納税の獲得に注力すべきでは。

〔市長〕 企業版ふるさと納税は今後一層の市場拡大が見込まれることから、制度の周知を図るとともに、本市を応援してくれる企業を発掘する。

〔問〕 避難指示を出す時刻が深夜になった場合について。夜間の避難の危険性や注意点を示したメールでの避難を呼びかけるべきでは。

〔市長〕 夜間における避難の危険性や注意点については、伝達マニュアルを見直すほか、防災講座や防災訓練の実施により、避難ルートや危険箇所の確認など、市民の意識の向上を図っていく。

〔問〕 在宅で介護を受けている方は家族の協力が必要となり、福祉避難所だけでなく、一般の避難所を利用する場合も想定される。事前の計画をつくっておくことが必要では。

〔市長〕 一般の避難所で多人数がいる中での避難生活が難しい方については、避難所では原則として災害時要援護者のいる世帯を優先することとしている。実態に合わせた避難所運営となるように取り組んでいく。

〔問〕 扇田病院は、在宅医療を進める上で重要な在宅医療支援病院の役目を担っている。総合病院と扇田病院が医療の連携を進めるためには、扇田病院が電子カルテを導入することが必要ではないか。

〔病院管理者〕 扇田病院への電子カルテの導入と総合病院との情報連携が実現すれば、患者情報の共有による迅速な診断や在宅療養患者の急変時の対応など、病院、患者ともに得られる効果は大きい。扇田病院の将来の医療機能と併せて、時機を失することなく検討したい。

〔問〕 コストを抑え政策効果を高めることが期待されるPFS（成果連動型民間委託契約方式）を導入しては。

〔市長〕 新たな官民連携の手法として、国の動向や先進地の取組状況などを情報収集し、本市における有効性について検討したい。

一般質問の全文は、12月中に市のホームページへ掲載する会議録でご覧いただけます。

一般質問

2万人もの反対がありながら扇田病院を廃止し『診療所』にする理由はなにか

さとう よしただ
佐藤 芳忠 議員（市民の風）



〔問〕 市長は答弁に責任を持たなければなりません。しかし扇田病院に関する市長の答弁は、病院存続から無床診療所へと大きく変わりました。『扇田病院は決して潰しません。』扇田病院は決して潰しません。『扇田病院は決して潰しません。』が、『扇田病院は決して潰さない、存続させます』と言ったのは、扇田に診療する場所を、医療を提供する場所を残すという意味です。『診療所化の方針は変えない。吉原』

『診療所化の方針は変えない。吉原管理者の見解だから』へと変わりました。市立病院の最高責任者である開設者の市長は『老朽化、経営状況、人口減少等で医療を続けることは難しく介護施設との連携が必要』としていますが、これらは扇田病院を診療所にする理由にはならないものです。

〔市長〕 令和元年9月の厚労省の再検証対象医療機関の公表は、将来

の地方の人口減少、医療需要など地域の医療の方向性を考える契機になりました。市の戦略会議では老朽劣化度調査の結果を踏まえ将来の地域の人口、患者数の推移、必要な病床数、資金不足の解消の見通しなど、中長期的な視野で検討してきました。施設の老朽化、改善が見込まれない収支状況、あるいは浸水想定区域などの問題、将来の医師確保という課題がある中においても、将来、持続可能な地域医療提供体制を構築していくために、無床の診療所化案を示したものと認識しています。

〔問〕 確かに、令和元年9月の再編統合を促す424病院に扇田病院が入ってました。しかしその後『医師確保の足かせになった。撤回を』などと全国から不満が噴出し、橋本副大臣が陳謝し、厚労省は『必ずしも医療機関の統廃合を決めるものではない』と陳謝し、令和3年12月には、『病床や統廃合ありきではなく、各県が地域の実情を踏まえて、取り組みを進めるもの』と、方針を大きく変えました。ですから、変わった国の方針に従うべきだと思います。

〔市長〕 地域が主体となって考えるべきだという、国の方針に従った流れだと、解釈をしております。

※新型コロナウイルス飛沫感染対策として、演壇に透明アクリル板を設置しました。

将来の地域医療について

ひ かげ
けん こ
日景 賢悟 議員（無所属）



〔問〕 人口減少が進む大館市に、将来2つの市立病院を維持することは困難と考える。よって「扇田病院を新設する（案）自体を撤回すべき」という考えを基に、新しい診療所を比内地域につくること自体に反対する。

〔市長〕 将来の生産年齢人口の減少が進む中で、現在の体制を維持していくことは非常に難しいが、比内地域に医療機能を残すため扇田病院の無床化案を提案した。一次医療としての扇田病院、二次医療としての総合病院、これら二つのさらなる連携と集約が必要になる。

〔問〕 議論すべきは大館・鹿角に北秋田を含めた、より広域な医療圏構想であると同時に、医療と福祉の機能分担だと考える。よって、県が進める地域医療構想の中で持続可能な具体案を提示すべきと考えるが。

〔市長〕 全く同感。秋田県医師会から、現在8つの二次医療圏を、将来県北・県央・県南の3つに再編す

る案が示されている。医療と介護の包括ケアシステムの再構築や、持続可能な医療提供体制のみならず、将来世代に負担を先送りしないことを念頭に、議論していく。

〔問〕 無床化案は、比内地域に医療機能を残すための（案）であり「苦渋の選択案」であると認識している。しかし、この提案に対し多くの反対署名や請願書も出されている。つまり「残すための案」に反対意見が多いことに他ならない。であるならば、無床診療所新設案自体を撤回すべきと考えるが。

〔病院管理者〕 地域医療を維持するためにも公設の外來機能は残すべきと判断した。扇田病院を無床診療所にし、訪問診療、訪問介護の充実を図ることによって資金不足が解消され、将来世代への負担が回避されると試算し、存続案を示した。

〔問〕 私は、新設すべきではないという固い意志を持って臨むが、今後議員が決めた議会の議決には潔く従う。よって、無床診療所を新設するなら、議会に再提案し早期の実現を。〔病院管理者〕 施設全般の老朽化が進み、時間的猶予がない状況。診療所化を基本とし、他の選択肢の検討を行い、全市的な観点で課題解決策を提案できるよう取り組む所存。

大館市議会

検索

クリック

一般質問

記録的大雨災害に対する復旧、支援について 大館版mobiプロジェクト実証運行

やなぎだて
こう
柳館 晃 議員（令和会）



〔問〕 最終的に道路、農地、農作物、林地等、被害額はどのくらいか。激甚災害に指定されるとすれば、どのような支援を受けられるのか。

〔市長〕 被害の状況は、床上、床下浸水が計269棟、土木関係は、道路、河川など10か所、被害額約9億9000万円、農業関係は、被害額約7億4700万円、林野関係は、被害額約7億円、その他を含め、被害額は、24億8000万円余りに及ぶ。激甚災害に指定された場合には公共土木施設災害復旧事業等に特別の財政援助、農地等の災害復旧事業に係る補助の特別措置等が適用され

国庫補助率が高上げとなる。

比内地鶏関係の被害に対しては、パイプハウスの解体撤去費、消毒剤購入費、素糶購入費に対して助成を行う。また、河川整備計画見直しについては、流域治水の考え方に応じた整備を推進、米代川治水期成同盟会や米代川流域の住民の皆様と水害を軽減させる協議や情報共有を図り災害抑制に努めていく。

〔問〕 大館版mobiプロジェクト実証運行について、概要、運行範囲、利用料金は適切か。本格運行に向けての課題はあるのか、既存の路線バス、タクシー、鉄路との共存、補完する関係になるためにはどうするのか。運行範囲と他地域の連絡をスムーズにするための方策はあるのか。

〔市長〕 本プロジェクトは、公共交通の移動総量を増やすことで市民生活の向上を目的とし、国土交通省の共創による地域交通形成支援事業において、全国で15件、県内唯一の採択を受けた。市中心地の半径約2キロメートル圏内を相乗り、定額（1回300円、1カ月5000円）で2台ワゴン車を用い、10月から2月まで、その効果を検証するものである。本プロジェクトは、市民生活の向上につながると確信している。

常任委員会から

大館市議会には4つの常任委員会があり、それぞれが所管する議案等の審査をしています。
ここでは、9月定例会の審査の概要をお知らせします。

総務財政常任委員会

令和3年度決算における財政健全化判断比率及び資金不足率について

令和3年度決算に基づく財政健全化判断比率と公営企業の資金不足率について、当局から説明があった。実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4指標は、いずれも財政健全化法の早期健全化基準をクリアしている。公営企業ごとの資金不足比率については、扇田病院で資金不足が生じたが、病院事業全体としては、経営健全化指数の範囲内となっている。

地方創生関連事業の効果検証について

大館市総合戦略に基づき、国の地方創生臨時交付金を活用して実施した事業の効果検証について、当局から説明があった。地域連携DMO秋田犬ツーリズムによる観光振興事業、野遊びSDGs、教育と学ぶ力で活力を引き出す大館版リカレント教育、ペットと泊まれる宿泊施設整備事業の4事業について、令和3年度の取組状況と、外部有識者による検証結果が報告されたが、

委員からは「今後も事業を継続していけるかの観点で進めてほしい」といった意見が出された。

その他、8月3日からの大雨等による被害状況の報告や、新型コロナウイルス感染症などの影響により燃料・物価高騰に直面する市民を応援するため、1人当たり50000円の地域商品券を配布する大館暮らし応援商品券事業の説明があったほか、来年春に行われる予定の県選、市長・市議選の選挙事務費や大雨災害の災害復旧費にかかる補正予算案などが審議された。

総括質疑では、市の財政状況の見通しや、大雨被害を受けての治水対応などが取り上げられた。



総務財政常任委員会の様子

～先進地の取り組みを視察してきました～

行政視察

ローカルベンチャー
(イターンなど)
(岡山県西栗倉村)

岡山県西栗倉村は、ローカルベンチャーを起業する若者が全国から集う、地方創生の先進地として知られる村である。地域資源である森林に着目、私有林を村で一括して管理するとともに、林業の6次化を図る「百年の森林事業」のほか、地域資源を活用しながら起業する人を呼び込むことにより、移住者と交流人口を増やし、人口の15%を移住者が占めることになったローカルベンチャーの取組について担当者から説明を受けたが、本市の施策にも大いに参考になるものであった。



西栗倉（にしあわくら）村にて

2019年 合計特殊
出生率2.95を達成し
た出生率向上の取組
(岡山県奈義町)

岡山県奈義町は、人口減少対策として独自性の高い子育て支援策を打ち出し、2019年に全国でもトップクラスの合計特殊出生率2.95を達成した「子育て応援」の町である。子育て世代をターゲットとした住宅や分譲地の整備、子育てをしながらでも働ける場所・機会の提供、DXを活用した町独自の給付金支給など、若い世代の移住・定住を促進するための多様な子育て支援策の取組について担当者から説明を受けたが、本市の政策にも大いに参考になるものであった。



奈義（なぎ）町にて

厚生常任委員会

エネルギー・食料品
価格高騰対応
緊急助成事業について

エネルギー及び食料品価格の高騰により、経済的負担が増加する低所得世帯等に対し、その購入費の一部を助成する事業を行うことが、福祉課から報告された。

この事業は、低所得世帯の経済的負担を軽減し、生活の安定が図られるよう支援するもので、助成対象は、9月1日現在市に住民登録がある非課税世帯（社会福祉施設等に入所の場合は対象外）で、一世帯当たり1万5000円を申請時に指定した口座に振り込むことになる。



早口駅前通り
街灯更新工事について

早口駅前通り約1・4キロメートルに設置してある街灯56基の更新に係る工事費等の補正予算について、田代総合支所から説明があった。不良灯具16灯、不良ポール15基、付替LED灯30灯の工事を予定している。



厚生常任委員会の様子

～先進地の取り組みを視察してきました～

行政視察

脱炭素先行地域計画に
おける取組について
（北海道士幌町）

士幌町は令和4年4月、国が募集する第1回の脱炭素先行地域に選定され、国の支援を受けながらゼロカーボンに向けた取組を行っている。本市も2021年2月、ゼロカーボンシティ宣言をし、今後の脱炭素先行地域応募に向け準備を進めており、視察では、エネルギー資源の有効活用や、再エネ・省エネの推進等、持続可能なまちづく



上士幌（かみしほろ）町にて

子育て支援について
（北海道芽室町）

芽室町でも本市と同じような事業を行っている中で「発達支援システム」という取組が特徴的であった。何らかの発達支援を要する子供たちを早期に見出し支援するもので、個別のケースごとに就学前から学齢期、就労に至るまで、一貫性と持続性のある支援体制が取られていた。



芽室（めむろ）町にて

教育産業常任委員会

豪雨災害への対応について

8月3日から続いた豪雨災害により、多くの農地や林道などが被害を受け、その被害状況や復旧に関する補助事業などについて農政課、林政課などから報告があった。また、合津川周辺（十二所字別所）、平内水管橋の崩落、比内町味噌内の比内地鶏鶏舎などの現地調査を行い、想像を絶する被害状況を確認した。一刻も早い復旧と、調査や補助



教育産業常任委員会の様子

事業の適用に漏れないように市への対応を求めた。

また、10月に北前船寄港地フオーラムがフランスのパリで開催される予定であり、市長及び随員職員等が視察することとしていたが、田安や燃料費の高騰に加え、随員職員等を増員するため、旅費を増額する補正予算案が提出された。委員からは、災害復旧の途上で安易に予算補正することに対して、疑問の声が上げられ、随員職員の見直しなどを求めた。



現地調査の様子

～先進地の取り組みを視察してきました～

行政視察

mobiiの運用について （京都府京丹後市）

大館市では令和4年10月からAI（人工知能）を活用した定額制、相乗りのワゴン車を使用する新しい移動サービス「mobii（モビ）」の運行実証を行うこととしている。既存の交通機関との兼ね合い、運用面での課題、利用者の声などを導入先進地である京丹後市担当者から説明を受けた。市の中心地における公共交通空白地を埋めるだけでなく、視察の目的であった「観光客の足として活用できる



京丹後（きょうたんご）市にて

渋谷区子育てネウボラ について（東京都渋谷区）

渋谷区の子育ての拠点施設である「子育てネウボラ」では、施設の一部に大館市産秋田杉をフローリング材等として活用しており、利用者からは温かみがあり冬でも靴下がいらないなどの好意的な声があるとのことであった。子育ては移住定住政策においても大きなテーマの一つであり、多くのことが参考になった。



渋谷（しぶや）区にて

建設水道常任委員会

地域連携ICカードについて

今年3月よりバス事業者が広域移動を支える高速バスにおいて導入している地域連携ICカードについて、さらなる利便性の向上を図るため、令和5年3月までに路線バスに導入することを当局から報告を受けた。

地域連携ICカードは、バス運賃をキャッシュレス決済ができるほか、大手鉄道会社でも同様に利用が可能であるほか、日常の買い物の決済にも使用することができる。



建設水道常任委員会の様子

今回は、北鹿5市町村を走る路線バス車両98台を対象に実施し、導入費用は、国や県の補助を活用のほか、バス会社の営業所のある各市町村にも費用補助してもらいながら事業を進めることにしている。

今後、タクシー事業への導入を検討しており、タクシー事業者と協議を進めていく。

このほか、当局から8月の大雨による被害状況の報告を受け、合津川周辺（十二所字別所）の災害現場をはじめ計3か所の現地調査を行い、被害状況を確認した。



現地調査の様子

～先進地の取り組みを視察してきました～

行政視察

包括的民間委託（三重県鈴鹿市）

鈴鹿市では、社会的資本の持続的な維持管理体制構築や市民の安全・安心を安定的に確保するため、令和3年10月より道路維持管理業務について包括的民間委託業務を試行導入している。実施に当たり、委託業務の対象地域に事業所があることを入札参加要件に取り入れたほか、契約期間を通年に設定したことにより、受託者が業務に対し、迅速かつ丁寧に対応するなど、効果が大きくみられ、維持管理業務について、さらなる質の向上につながったと説明を受けた。



鈴鹿（すずか）市にて

歴史的風致維持向上計画（京都府向日市）

向日市では、784年に遷都した長岡京跡をはじめ、多くの歴史的建造物や景観などを保全・整備を行うため、平成27年に歴史的風致維持向上計画の認定を受けている。

市の説明では、市の面積が約8kmと小さいことから市域のほぼ全域を重点区域として整備を実施していること、また、市民が歴史を通じて向日市を誇りに思い愛着を持ってもらうため、向日市ふるさと検定を実施し、市内中学生には総合学習の一環として取り組んでいるなどの事例の紹介があった。



向日（むこう）市にて

令和3年度決算特別委員会

1. 令和3年度一般・特別会計決算

特別委員会を設置し、9月20日、21日、22日に審査を行いました。

一般・特別会計決算特別委員会の構成

(◎印 委員長 ○印 副委員長)

◎柳館 晃(令和会)	○佐藤 眞平(令和会)
石垣 博隆(令和会)	小棚木政之(令和会)
日景 賢悟(無所属)	佐々木公司(令和会)
田村 儀光(活性大館)	斉藤 則幸(公明党)
田村 秀雄(市民の風)	相馬卫ミ子(市民の風)
吉原 正(市民の風)	菅 大輔(市民の風)



審査の様子

令和3年度大館市一般会計及び特別会計の歳入歳出決算… **認定**

2. 令和3年度企業会計決算

特別委員会を設置し、9月26日、27日に審査を行いました。

企業会計決算特別委員会の構成

(◎印 委員長 ○印 副委員長)

◎岩本 裕司(市民の風)	○富樫 孝(市民の風)
武田 晋(令和会)	佐藤 久勝(令和会)
伊藤 毅(令和会)	阿部 文男(地域の会)
小畑 淳(令和会)	笹島 愛子(日本共産党)
小畑 新一(公明党)	佐藤 芳忠(市民の風)
明石 宏康(市民の風)	



審査の様子

令和3年度大館市各企業会計の歳入歳出決算…………… **認定**

私もひとこと 第48回

あぶかわ よしひさ
虻川 嘉久さん（川原町）



「大館」は、いつ頃から？

大館という地名が文献上に出てくるのは、安土桃山時代の天正年間の頃のようなです。重内（茂内）、有平（有浦）、とっこ（徳子・十狐・独鉦）、扇田、花岡、山館、川口などの地名が既に記録されていたのに比べれば、大館は新しい地名と言えるのです。

火内・肥内・比内

平安時代前期、米代川中流域には「火内」村があり、「蝦夷（えみし）」と呼ばれた私たちの祖先が生活していました。

平安時代後期になると、奥州藤原氏の勢力下となり、「肥内郡」が置かれました。藤原氏の四代泰衡が肥内郡警柵（二井田）で河田次郎によって殺害されたのは、文治五年（1189）の出来事でした。

南北朝期の文和三年（1354）の『沙弥浄光（しゃみじょうこう）讓状』には、この地方は「奥州陸奥比内郡」と記されています。沙弥浄光は、この地域に所領をもっていた浅利氏の一族です。

出羽国秋田郡大館村

安土桃山時代、比内地方を掌握した安東（秋田）氏の文書『出羽秋田郡知行目録（天正十九年・1591）』に、「千九拾九石四斗八升五合 大館村」とあって、「大館村」の初見資料とされています。また、秋田氏の配下となった浅利氏の『浅利頼平領内村数覚書（慶長二年・1597）』には、「大たて村 田畠 家二百余 我等

昭和27年生まれ。北羽歴史研究会会長として郷土史の素晴らしさを伝え、また、秋田北部風穴研究会員として県北部の風穴を調査しています。

屋しき廻」と、比内最大の村となっています。

米代川と長木川に挟まれた台地上の要衝に軍事的施設として「大きな館」が造られ、やがて周辺の岡崎村や金坂村などを総称して「大館村」と呼ばれるようになったとも推測されています。

秋田郡大館町

江戸時代、慶長十三年（1608）に大館城代となった小場義成は、大館城を中心とした町づくりを行いました。『秋田六郡郡邑記』（享保十五年・1730）には「大館町 比内庄と云古来の町也」と記述されています。当時の秋田郡比内の範囲は、旧大館市・比内町・田代町・鷹巣町・二ツ井町の小繋に至る一帯でした。

「私もひとこと」のコーナーでは、みなさんからの「なまの声」を募集しています。
議会事務局までご連絡ください。

市議会の傍聴について

市議会では、引き続き新型コロナウイルス感染症の対策を講じていますので、傍聴するかたは、マスクを着用し、議場入り口でアルコール消毒をしてください。

また、せき・発熱などで体調がすぐれない方は、傍聴をご遠慮ください。

編集後記



『そのマスクが欲しいのです…汗』と思いつきながら自宅に一度戻る自分が悲しい。
（石垣 博隆 記）

マスク生活も丸3年とうとうとしていますが、だいたい慣れてきたにせよ、やっぱり不便でなりません。「風邪に掛かりにくくなった」などの良い点もあります。しかし、外仕事（農作業）が多い自分は、どうしても忘れがちになります。特に農作業の合間で人と会う機会は、車に予備のマスクを常備させ対応するのですが、その常備マスクが切れている時、コンビニで買おうと駐車場で、マスク着用の文字を見て『そのマスクが欲しいのです…汗』